

# 令和5年度 事業報告書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

学校法人 谷岡学園  
〈大阪商業大学高等学校〉

# 学校法人谷岡学園 令和5年度 事業報告書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

## 1 法人の概要

### 建学の理念

学校法人谷岡学園は「世に役立つ人物の養成」を建学の理念とし、それを(1)思いやりと礼節(2)基礎的実学(3)柔軟な思考力(4)楽しい生き方、と解釈しています。すなわち、まず人物的に優れ、社会に必要な知識・技能・資格を備え、かつそれを活用し得る広い視野・適応力・創造性を持つ、そして、何事にもプラス思考で取り組み、楽しい充実した生活を送ることのできる人材の養成を使命としています。

### 1 設置する学校・学部・学科等

#### (1)大阪商業大学

大学院	地域政策学研究所 地域経済政策専攻、経営革新専攻
経済学部	経済学科
総合経営学部	経営学科、商学科、公共経営学科(平成30年度より募集停止)
公共学部	公共学科

#### (2)神戸芸術工科大学

大学院	芸術工学研究科 芸術工学専攻、総合アート&デザイン専攻
芸術工学部	環境デザイン学科、プロダクト・インテリアデザイン学科 ファッションデザイン学科、ビジュアルデザイン学科 まんが表現学科、映像表現学科、アート・クラフト学科

(平成27年度より募集停止)

先端芸術学部	まんが表現学科、映像表現学科、クラフト・美術学科
--------	--------------------------

#### (3)大阪商業大学高等学校

全日制課程普通科

#### (4)大阪商業大学堺高等学校

全日制課程普通科

#### (5)大阪緑涼高等学校

全日制課程普通科  
全日制課程調理製菓科

#### (6)大阪商業大学附属幼稚園

## 2 学部・学科等の入学定員、学生数の状況(令和5年5月1日現在)

### (1)大阪商業大学

※1…平成30年度より募集停止

学部等	学科[専攻]		入学定員	収容定員	入学者数	学生数
大学院 地域政策学研究所	地域経済政策専攻	博士前期課程	10	20	2	8
		博士後期課程	3	9	1	4
	経営革新専攻	修士課程	10	20	3	5
	計		23	49	6	17
経済学部	経済学科		300	1,200	350	1,397
	計		300	1,200	350	1,397
総合経営学部	経営学科		400	1,600	465	1,867
	商学科		150	600	179	736
	公共経営学科※1		—	—	—	1
	計		550	2,200	644	2,604
公共学部	公共学科		250	1,000	272	1,061
	計		250	1,000	272	1,061
合 計			1,123	4,449	1,272	5,079

### (2)神戸芸術工科大学

※1…平成27年度より募集停止

学部等	学科[専攻]		入学定員	収容定員	入学者数	学生数
大学院 芸術工学研究所	芸術工学専攻	博士後期課程	6	18	3	9
	総合アート&デザイン専攻	修士課程	27	54	43	86
	計		33	72	46	95
芸術工学部	環境デザイン学科		70	280	62	284
	プロダクト・インテリアデザイン学科		70	280	55	233
	ファッションデザイン学科		50	200	38	124
	ビジュアルデザイン学科		80	320	104	349
	まんが表現学科		45	180	71	228
	映像表現学科		45	180	77	272
	アート・クラフト学科		40	160	52	193
	計		400	1,600	459	1,683
先端芸術学部	まんが表現学科※1		—	—	—	—
	映像表現学科※1		—	—	—	1
	クラフト・美術学科※1		—	—	—	—
	計		—	—	—	1
合 計			433	1,672	505	1,779

### (3)大阪商業大学高等学校

課程・学科	募集定員	入学者数	生徒数
全日制課程 普通科	325	465	1,189

(4)大阪商業大学堺高等学校

課程・学科	募集定員	入学者数	生徒数
全日制課程 普通科	400	324	1,002

(5)大阪緑涼高等学校

課程・学科	募集定員	入学者数	生徒数
全日制課程 普通科	240	139	456
全日制課程 調理製菓科	60	48	177
合 計	300	187	633

(6)大阪商業大学附属幼稚園

保育年限	募集定員	収容定員	入園者数	園児数
3歳児(3年)、4歳児(2年)、5歳児(1年)	50	170	38	129

### 3 役員・教職員の人数

#### (1) 役員(令和5年5月1日現在)

理事	理事長	谷岡一郎	監事	岡山栄雄
	理事	谷岡辰郎	監事	西村義明
	理事	佐藤優		
	理事	佐藤賢治		
	理事	常岡裕之		
	理事	加藤幸江		
	理事	片山隆男		
	理事	板倉龍介		

#### (2) 評議員(令和5年5月1日現在) 20名

西本真治	的場啓一	高岸暎治	神戸直樹	谷岡一郎	片山隆男
佐藤優	谷岡辰郎	板倉龍介	好永保宣	岩田康宏	常岡裕之
佐藤賢治	寺田全輝	谷岡瑞子	渡辺真一郎	安藏伸治	小守良昌
加藤幸江	南方建明				

#### (3) 責任限定契約について

寄附行為第19条に基づき、令和5年5月1日現在、次のとおり責任限定契約を締結しています。

##### ○対象役員氏名

(非業務執行理事) 加藤幸江 板倉龍介  
(監事) 岡山栄雄 西村義明

##### ○契約内容の概要

当該役員が本学園の役員として遂行した職務に関して、私立学校法第44条の2第1項に基づく損害賠償責任を負う場合、当該役員がその職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、私立学校法その他の法令が定める最低責任限度額をもって、当該役員の本学園に対する損害賠償責任の額の上限とし、当該上限を超える部分については、責任を負わないものとする。

##### ○契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置

上記契約内容のとおり。

#### (4) 役員賠償責任保険契約について

令和5年1月26日理事会決議に基づき、令和5年4月1日付で役員賠償責任保険に加入しました。

##### ○被保険者

理事・監事・評議員

##### ○契約内容の概要

保険名称: 私大協役員賠償責任保険制度

団体契約者: 日本私立大学協会

補償内容: (個人に関する補償)

- ・法律上の損害賠償金
- ・争訟費用
- ・損害賠償請求対応費用
- ・公的調査等対応費用
- ・刑事手続対応費用
- ・財産又は地位の保全手続等対応費用
- ・信頼回復広告費用

(法人に関する補償)

- ・法人内調査費用
- ・第三者委員会設置・活動費用

支払限度額:1億円(免責金額0円)

契約期間:令和5年4月1日～令和6年4月1日

○支払対象とならない主な場合

法律違反に起因する対象事由等。

**(5)教職員(令和5年5月1日現在)**

学校名	教員・研究員	職員	合計
大阪商業大学	207(99)	157(18)	364(117)
神戸芸術工科大学	196(101)	75(16)	271(117)
大阪商業大学高等学校	125(42)	13(1)	138(43)
大阪商業大学堺高等学校	101(31)	15(2)	116(33)
大阪緑涼高等学校	99(42)	14(2)	113(44)
大阪商業大学附属幼稚園	18(3)	3(1)	21(4)
合計	746(318)	277(40)	1,023(358)

※( )は非常勤教職員(内数)、法人職員は大阪商業大学に含む。(役員関係及び兼務者は除く。)

## 2 事業の概要

### 大阪商業大学高等学校

#### (1) 学校基本領域

建学の理念「世に役立つ人物の養成」の基、中堅私学として、進学志望校に選択される学校、地域で信頼される学校、そして、募集定員を満たす安定した入学生徒数を確保できる学校を目指して教育活動に取り組みました。新型コロナウイルスの影響により学校行事が制限されていましたが、5月以降、5類へ引き下げられたことにより、年間計画通りの学校行事を行うことができました。

年度のスタートより、既に策定したスクールミッション、そして4つのコースのスクールポリシーを基に、各教育活動を行っていくことが決まりました。グローバル商大コースでは、進学意欲が高い生徒に対する援助として放課後学習プログラム「まな部」を、デザイン美術コースと共同で実施しました。参加生徒は、3年英語10名、国語9名、2年英語11名、国語7名でした。運営に際して、「まな部」の運営マニュアルを作成しました。その際にグローバル商大コースとしては、「まな部」立ち上げ当初の目標に戻り教員は、頑張る生徒をサポートする立場であり、生徒たちの自学自習が基本であることを明確にしました。しかし、到達目標が明確ではない点や、デザイン美術コースが「まな部」に求めるイメージとの違いにも大きな差がある点など課題は山積みであると思われます。また、大学での学びへの動機づけとして、「日商簿記検定2級講座」を2学期スタートで開講しました。11名エントリーがありましたが、最終的に合格者は0名という厳しい結果となりました。ただ、今後も生徒たちが積極的に各種検定に挑戦できるような環境を作っていきたいと考えています。コース全体で関西大学1名、近畿大学13名、龍谷大学1名、関西外国語大学9名などの合格を出すことができました。

文理進学コースでは、長期休暇を利用した進学対策授業に加え、探究心を養うプログラムとしてBSA(Bunri Seeking Activity)を週1回放課後に実施しました。生徒たちは興味・関心を示し、次年度に繋がっていく活動となりました。合格実績として、国公立大学の合格が3名(大阪教育大学・奈良教育大学・福山市立大学)でした。また難関私立大学において、関西大学2名、立命館大学1名、近畿大学23名、京都産業大学1名、龍谷大学8名の合格となりました。

デザイン美術コースについては、デッサン力の充実と基礎学力対策というコンセプトに従い、放課後のデッサン授業においてデッサン専門の先生による指導を続けています。その成果があり、合格実績として国公立大学(尾道市立大学)1名、そして神戸芸術工科大学に3名合格、進学しました。その他芸術・美術系大学および芸術学部系に11名が進学することができました。

スポーツ専修コースでは、「簿記」の授業が2年生を対象に始まりました。3学期に行われた全商簿記実務検定3級で受験者70名、合格者33名(47%)という結果になりました。

コースごとに行き先を設定した修学旅行が本年度より開始されました。プログラムについては概ね好評であったと思われます。しかし、行程が細分化されることにより、引率教員数の不足や教員業務の過重負担が見られましたので、次回実施に向けて改善が必要です。

#### (2) 学習指導領域

「授業を真剣に取り組む姿勢の育成」を本年度も重点課題としており、ベル着・ベル授業開始については概ね達成できていますが、50分間の授業がしっかり行われているには至っていません。各学年で教室巡回などを通じて授業への集中を促してきましたが、学期が進むごとに、モチベーションが下

がっていることは否めない事実です。また、1年生よりChromebookを配付し、授業での活用が始まりました。有効利用については、まだ改善すべき点がありICT教育推進委員会を中心に進めていく予定です。教務部が授業態度調査を実施し現状把握に努めました。教務部から、考査ごとの平均点などのデータを全教員、全教科へ提供するなど情報公開・共有を行っており、個々の科目担当者や学年団単位だけではなく、教科全体で常に意識し、対応を進めています。

文理進学コースでは、校内実施進研マーク模試は、得点率60%以上を受験者数の50%以上、進研記述模試は昨年同様、偏差値50以上を受験者数の50%以上がクリアすることを目標としました。マーク模試について3年生は9科目中6科目、記述模試では2年生が9科目中4科目クリアすることができました。学年が上がるにつれて、日頃のきめ細やかな指導の成果が出ているものと判断できます。

検定に対する取組みの結果は、次のとおりです。全商簿記実務検定3級228名(昨年比+19)、2級54名(同+1)、1級原価計算5名(同+1)、財務会計5名(同-1)、実用英語技能検定(英検)3級57名(昨年比-64)、準2級34名(同-48)、2級16名(同-2)、ICTプロフィシエンシー検定(P検)3級51名(昨年比-2)、準2級30名(同-19)、色彩検定3級16名(昨年比+5)、2級16名(同+8)が合格という結果になりました。全商簿記実務検定は各級においてほぼ昨年度同様の成果をあげていますが、英語検定は全級で大幅に下回る結果となりました。英語検定受検数が減少しているのも一つの要因と考えられます。ただ、特にグローバル商大コースは検定・資格の取得をコース目標として掲げているので、早急な改善策が必要であると思慮します。

導入されたタブレットについては、使用ルールなど改定をしていく必要もありますが、教科会を中心に効果的な利用方法を検討しています。また谷岡学園高等学校教員全体研修会においても、テーマとなり有益な情報交換ができたとの報告も受けています。

### **(3) 生活指導領域**

学校生活において、基本的な生活習慣の確立を図り、全教員で取り組む生活指導を徹底しました。生活指導週間はそれぞれの重点指導項目を定めて実施、昼休みの校内巡回、目標値を設定しての遅刻指導に注力しました。また制服の着こなし、特に一部の女子生徒のスカート丈と男子生徒のワイシャツの裾だし、に対して全教員での徹底指導が必要な状況でもあります。

八戸ノ里ドライビングスクール講師による交通安全指導講演、性教育、マナー教育などについては外部講師を招いての講演会を実施しました。また八尾少年サポートセンターより講師を招き、高校生が陥りやすい犯罪についての講話をしていただきました。

生徒自治会は特別教育活動部が管轄し、自治会役員を中心として校内大会、体育祭、文化祭などの行事を企画、運営しています。本年度は初めての外部体育館での体育祭開催、そして数年ぶりに文化祭で飲食を許可した模擬店など生徒の満足度の高い行事を実施することができました。クラブ活動は、柔道部女子個人、ボクシング部女子、空手道部男子団体組手などが全国大会出場、陸上競技部、柔道部男子、空手道部女子団体組手などでも近畿大会への出場を果たすなど成果を残しました。特に3月に行われた全国大会において、柔道部女子個人で第5位、ボクシング部女子で第3位、パワーリフティング同好会男子が第6位と上位入賞を果たし日頃の成果を発揮することができました。しかし、グローバル商大コースを中心にクラブへの加入率が下がっており、対応策を早急に考える必要があります。

保健委員会を中心に配慮を要する生徒の情報共有機会を設けました。また、教員対象にAED、CPR研修会を実施しました。サポートルームの授業については時間ごとに教科担当者を配置し対応しています。このサポートルームをさらに効果的に運用できるよう検討を進めています。今後、義務化される合理的配慮について、更に研修を行い理解を深める必要があります。

#### (4) 進路指導領域

計画的に進路指導を行い、適切な情報提供をすることで、進路に対する目的意識を形成するとともに学習への意欲を高めてきました。進路ガイダンスも予定通り行うことができました。各学年の進路部員が学年と連動して概ね方針は達成されました。

系列校との連携では、大阪商業大学については理事長・学長による特別講演、そして広報入試課の協力を大いに得ることができました。ただし、本年度大阪商業大学への進学数が1年前と比べ半減する結果となりました。様々な要因は考えられますが、分析を行いたいと考えます。神戸芸術工科大学とも引き続き良好な関係性が維持、継続されるよう努力を続けていきたいと思えます。

進路目標の具体化のために、学期中は外部講師および本校教員の7・8限授業を行いました。また、グローバル商大コースなどでは“まな部”、文理進学コース対象に学期末特別授業、大学入学共通テスト後の二次対策授業を実施しました。大学入学共通テストの受験者は22名と例年に比べ減少しました。文章量、読解力等、科目特性にかかわらず要求される内容になっており、たくさんの文章を読み解く訓練を行っていかねばならぬような試験形式です。そのような点で、生徒にとって、敷居が高くなった感も否めません。その中でも国公立大学に4名合格（文理進学コース3、デザイン美術コース1）するなど3年次の指導成果が表れました。またグローバル商大コースからも難関私立大学への合格者が多く出ました。3年次における進路指導部および担任、教科担当者からの働きかけでモチベーションを維持することができた結果であります。

進路集計として、4年制大学 68.2%（大阪商業大学 54人 16.2%、神戸芸術工科大学 4人 1.2% 他大学 50.8%）、短期大学 9.9%、専門学校 13.2%、就職 3.9%、その他 4.8% という結果になりました。4年制大学への進学率は昨年度と比較してほぼ同じですが、大阪商業大学への進学者は半減する結果となりました。大阪商業大学だけに限らず、様々な受験校選択を担当団から提示した結果だと考えられます。また短期大学への進学者も増加しました。4年制大学を第一希望に受験をしましたが、短期大学部への回し合格が多かった結果であると考えられます。

#### (5) 入試・渉外領域

基盤とする東大阪市・八尾市・大阪市への広報活動を渉外担当者がきめ細やかに行い、学校やコースの特徴を浸透させることで、安定した入学者確保を目標としています。中学校へは担当者4名で5月より訪問を開始し、クラブでの実績、検定取得状況や転退学者などの生徒情報を可能な限り伝えることなどで信頼を得ています。中学校の評定合計を進路相談の基準とすることは分かりやすく、好評を得ています。中学校との連携強化として実施している出前講座は積極的に受け入れ、6中学校8講座すべて引き受け実施しました（昨年度9中学校17講座）。学習塾に関しては、専従の担当者、嘱託教諭 計2名で対応しました。2023（令和5）年度は1,135か所（昨年度1,097か所）と精力的に訪問を行っています。また、オープンスクール、入試説明会、デッサン講習会4回実施、デザイン美術コース説明会、入試相談ウィークを予定通り実施することができました。ネット予約システム“mirraicompas”を利用し予約制と当日の申込にも対応しました。オープンスクール参加860組（昨年度865組）、入試説明会（入試相談ウィークを含みます）505組（昨年度606組）、デッサン講習会219組（昨年度244組）でした。入試説明会以降のイベントで、昨年と比べて数値が減少する形となりました。秋以降のイベントでの数値の減少が後述する出願数にも影響を及ぼしていると考えられます。

志願者数は専願 320名、併願 652名 計 972名となり、昨年度（専願 365名、併願 769名 計 1,134名）と比較しますと162名の減少となりました。特にグローバル商大コース女子の併願者数が88名程度減少しました。ただ、専願では募集定員325名に対して、320名が出願し、専願者の比率

が高い状態は続いています。志願者における専願率は 32.9%（昨年度 32.2%）男女比が専願 男 62 : 女 38 併願 男 59 : 女 41 となり、昨年度より女子の比率は減少しましたが、共学校として定着したと考えられます。

受験生のコロナ・インフルエンザに罹患した場合の受験予備日を 1 日設け、対象者の 12 名が受験しました。また専願受験者が少なく募集定員を満たさないと予測されたため、文理進学コース及びデザイン美術コースを対象とした 1.5 次試験を同日実施しました。志願者数は文理進学コースのみ 4 名でした。“mirai compass”を利用した受験者への合否発表および中学校への合否通知を初めて導入しました。大きな混乱はありませんでしたが、中学校への合否通知は中学校側の事前登録および承認申請が必要であり、教育相談時に周知しているにもかかわらず、登録が少なく事後の問い合わせが少なからずありました。

#### (6) 教員の研修・研究領域

夏期研修会では、人権問題についての講演会を行い、ジェンダーについて学ぶ場としました。谷岡学園高等学校教員全体研修会において 2 年連続で教科ごとに ICT 教育についての情報交換会を行い意義のある時間となりました。ミニ勉強会は、重要な内容を含んだ勉強会ですが、参加者が少ないことが残念でした。放課後授業やクラブ活動、時間的な余裕がないなどの原因が考えられます。常勤講師 1 年目教員対象に年間 10 回の研修会を実施しました。公開授業は年 2 回期間を設けて行いました。特に ICT 機器を用いた授業の方法など参考になったなど肯定的意見もありましたが、生徒指導や授業準備のために見学に行けなかったという声も多く、見学をしやすい仕組みが必要であると思われます。今年度赴任した教員中心に、消防署による AED・CPR の講習を実施しました。

外部の研修会として、日本私学教育研究所や私学マネジメント協会主催の各種研修会に管理職および教員が参加しました。

#### (7) 経営領域

募集活動については、前述の様に本年度の専願 320 名、併願 652 名 計 972 名となり、昨年度（専願 365 名、併願 769 名 計 1,134 名）と比較しますと 162 名の減少となりました。専願で定員に近い人数確保は行えましたが、併願受験数が減少しているうえに、併願先と思われる公立高校大半が受験倍率 1 倍を割っているため、戻り数も例年より少なくなりました。（併願からの入学 46 名、戻り率 7%、昨年度は 14%）

デザイン美術コースの教育内容の周知および受験生確保を目的として「デッサン講習会」を年間 4 回実施していますが、複数回参加したにもかかわらず、出願に結びつかなかった件数も少なくありません。実施時期や学力基準などの問題があげられていますので、次年度に向けて検討していく予定です。指定強化クラブを中心とするアスリート推薦は、顧問のスカウティングなどの尽力によりスポーツ専修コースで専願 95 名の入学者を確保することができました。スポーツ専修コースの専願者の数値は、自ずと全受験者の専願者数に影響を与えるものであります。継続して重視していきたいと思えます。安定して 100 名程度の専願者を集めるために、スポーツ特待生制度の見直しを早急に図っていきたくて考えています。それに加え、進路実績では成果をあげているものの、受験者数、入学者数ともに目標値を大きく下回っている文理進学コースについても、特待生制度および広報活動内容の見直しを行っていく予定です。

#### (8) その他の領域

一学期末・二学期末と年 2 回、クラスで三者懇談を実施しました。本年度は、教員の業務削減のため、一・二学期中間考査後の成績郵送は行いませんでした。中間試験成績表は生徒に配付し、配付し

た旨をさくら連絡網で通知する形式に変更しました。大きなトラブルや苦情などはありませんでした。P T A関連行事（総会・学年集会）も予定通りに実施、文化祭や外部体育館で行われた体育祭へ保護者に多数来場していただきました。保護者対象の授業公開も 11 月に実施、日頃の生徒たちの学習成果を見ていただくことができました。卒業式も参列者の制限を解除しました。

さくら連絡網は効果的な利用ができています。仕事等で電話の繋がりにくい家庭に対してもメッセージを残すことができ、学校や学年から一斉に連絡やメッセージを送信できることで遅刻や欠席の連絡も含めて情報共有することに活用できました。

教職員の労務に関しては、18 時 30 分全校完全下校日を月 1～2 回設けることを継続実施しています。以前に比べ、退勤時間は全体的に早くなっていると思われます。また有休取得の勧奨を行い、昨年度に比べ取得率が高くなりました。三学期より、試験的に完全下校時間を 21 時から 20 時に繰り上げました。次年度当初より、20 時完全下校として運用していく予定です。

衛生委員会は定期的開催し、健康診断の結果を基に、産業医と相談し教職員へ校長・衛生委員会名で再受診勧告を実施しました。

学校評価委員会を 4 年ぶりに 3 月に開催することができました。近隣の自治会長にもご出席いただき、活発な意見交換ができました。

### 3 財務情報

資金収支内訳表  
令和5年4月1日から  
令和6年3月31日まで

収入の部

(単位 円)

科目	部門	大阪商業大学高等学校
学生生徒等納付金収入		556,016,468
手数料収入		19,586,700
寄付金収入		1,400,000
補助金収入		601,075,648
国庫補助金収入		0
地方公共団体補助金収入		375,932,116
地方公共団体授業料軽減補助金収入		225,143,532
資産売却収入		0
付随事業・収益事業収入		114,140
受取利息・配当金収入		5,269
雑収入		4,588,830
借入金等収入		0
計		1,182,787,055

支出の部

科目	部門	大阪商業大学高等学校
人件費支出		875,155,707
教育研究経費支出		201,059,491
管理経費支出		39,792,216
借入金等利息支出		1,663,736
借入金等返済支出		146,674,000
施設関係支出		486,800
設備関係支出		11,101,130
計		1,275,933,080

事業活動収支内訳表

令和5年4月1日から  
令和6年3月31日まで

(単位:円)

科 目		部 門	大 阪 商 業 大 学 高 等 学 校
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	556,016,468
		手数料	19,586,700
		寄付金	1,801,500
		経常費等補助金	601,075,648
		付随事業収入	114,140
		雑収入	4,588,830
		教育活動収入計	1,183,183,286
	支事業の活動	人件費	921,156,413
		教育研究経費	299,310,698
		管理経費	50,145,990
教育活動支出計		1,270,613,101	
教育活動収支差額		△	87,429,815
教育活動外収支	収事業の活動	受取利息・配当金	5,269
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	5,269
	支事業の活動	借入金等利息	1,663,736
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	1,663,736
教育活動外収支差額		△	1,658,467
経常収支差額		△	89,088,282
特別収支	収事業の活動	資産売却差額	0
		その他の特別収入	0
		特別収入計	0
	支事業の活動	資産処分差額	818,735
		その他の特別支出	0
		特別支出計	818,735
特別収支差額		△	818,735
基本金組入前当年度収支差額		△	89,907,017
基本金組入額合計		△	1,622,397,819
当年度収支差額		△	1,712,304,836
前年度繰越収支差額		△	3,343,610,713
翌年度繰越収支差額		△	5,055,915,549
(参考)			
事業活動収入計			1,183,188,555
事業活動支出計			1,273,095,572

※人件費、管理経費には、法人経費が含まれています。